

議長対談

9月3日

「市民1人1ボランティアの推進について」



山田 幸夫議長

議長 市長は、市民一人一人ボランティアを提唱され、市にボランティア窓口の係を作られました。そこで、ボランティア活動を市民に広める方法などについて、ご意見を聞かせていただきたいと思えます。



竹林 順子さん

竹林 今、団塊の世代が企業を退職されていますから、男性も含めたボランティアを広める絶好の時期ですので、出前講座や講習会でいろいろなボランティアを紹介する取り組みをなさっていただきたい

松岡 ボランティアの呼び掛けを、市の広報や社会福祉協議会の広報で、ボランティア窓口のPRも兼ねて、具体的な例をあげてすれば、どうでしょうか。
ボランティアをする気持ちはありながら、今一歩踏み出せない方々も窓口にはらっしゃる期待ができるかと思えます。



富田 敏夫さん

富田 市長さんがおっしゃるように、「市民一人一ボランティア」という趣旨は確かに良いことだと思います。ボランティアを広げるといふことは、一番大切なことです。継続は力なりと言いますから、広げることを持続していくことが重要ではないかと思えます。

齋藤（譲一） ボランティアは、やるうという気持ちで育てることが大事。
やはり小さいときから子供に教えておく必要がありますね。私は、学校のボランティア教育というものは、ものすごく大事だと思います。
私は、小学校や中学校、高校でボランティアをする子供



安川 雅樹さん

安川 ボランティアというのは、自分からやりたくて、人の役に立ちたくてやっているものであって、例えば、人からしなさいと言われてやるものではないですし、その対価や見返りをもらうものではないと思えますね。

私たちが、もつとボランティアというものを広めるためには、ボランティアの原点に立ちかえり、自分から進んでやらなければいけないのだというような気持ちにさせてあげることが大事ではないかなと思えます。

石黒 ボランティアを進め育てようとするならば、まず地域を見て、その地域でのリーダーの方々にボランティアをPRしていただきたいと思えます。その地域には、やっぱりそれだけの必要なボラン



齋藤 紀子さん

齋藤（紀子） 市全体を見渡して、どこにどんなボランティアが必要かを探るのもボランティア窓口の一つの仕事だと思います。また、今のボランティアはグループ化したものが多いので、お誘いしてあげた方がいいと思えます。

たちを、今から育てておくことが将来のために良いと思うんです。ボランティア窓口を作り、ボランティアというものに対する意識を盛り上げられたことは大事なことでと思います。このようにして、ボランティアに対する意識を、一段一段高めていっていただきたいと思えます。

ティアというものがたくさんあります。そういったことを探り当てることも大切だと思います。



石黒 磯さん

有 沢 ボランティアに対する市民の意識をどうやって変えるか、その原点は、ボランティアという大上段に構えるのではなく、家庭の中が一番近くのボランティアの場、それが広がってお隣同士、それが広がって地域と、ボランティアの輪を段々大きくしていかなければ広がらないと思います。是非ボランティア窓口を担当なさる職員の皆様、ボランティアに対する意識改革をしていただきたいと思えます。

議長 近頃、ボランティアのポイント制が話題になっていますが、ご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

竹 林 ボランティアポイント制については、ボランティアの範囲をどのように決めるか、ポイントをどのように付けるかということになると思えます。

ボランティア連絡協議会などに無登録の方や個人ボランティアの方を把握し、ポイントをどのようにつけるのかが問題だと思えます。

松 岡 ポイント制を導入している例として、砺波総合病院のボランティアをしている「りんどうの会」という団体があります。

これは病院内での同じボランティアだから計算も容易で積み重ねることも出来ますが、多種多様にわたっているボランティアにポイント制を導入



松岡 紀子さん

するのは大変なことだと思います。煩雑な事務処理になることを考慮して、慎重に検討していただきたいと思えます。

齋藤（譲一） 日本的なボランティアというものを考えて広げていくときに、ポイント制度も一つの方法ではないかと思えます。

実は旧庄川町でもポイント制度をやったことがあります。貯めたポイントを換えるものがなかったため、途中でうまくいけなくなりました。

ボランティアは無数にありますので、これをポイント制度にするということについては、やはり難しいと思えます。何をもちょうポイントにするのか、基準というものが無いとこれは前には進みません。

ボランティアは無数にありますが、これをポイント制度にするということについては、やはり難しいと思えます。何をもちょうポイントにするのか、基準というものが無いとこれは前には進みません。



齋藤 譲一さん

齋藤（紀子） 旧庄川町でポイント制をしたときは、自己申告だったので、ポイントに

興味のある方は申告されますが、興味のない方は申告されなかった。もしポイント制を導入するとすれば、皆の利用しやすいポイントを考えて進めていただきたいと思えます。

石 黒 ポイント制というところで、市民一人一ボランティアそれがイコール、ポイント制なのかどうかということに疑問を持っておりません。私は、地域にポイントを与えてはいいかかなと思えます。

有 沢 ポイント制の内容などを精査していない、砺波市として必要かどうかはまだはつきりしてない現在、ポイント制の導入には反対です。砺波市民の7割以上がボランティアに関わるようになってからでないか、私はこのポイント制は時期早尚だと思えます。



有沢 史子さん

議長 最後に何かございませんか。

齋藤（譲一） 私は長い年月社会に養ってもらい、ご恩を受けているので、そのご恩を少しでも返すということをお心頭において、ボランティアをやっているつもりです。

議長 今日貴重な、そして大いに参考になるご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。

地域のボランティアの鑑として活躍の皆様方には、今後ますますのご指導、ご支援をよろしく願います。

《参加いただいたボランティアグループの皆さん》

- JA となみ野ほほえみの会会長..... 竹林 順子さん
- 音訳ボランティアらんぷの会代表..... 富田 敏夫さん
- 砺波赤十字奉仕団委員長..... 松岡 紀子さん
- 砺波市ふれあい号友の会会長..... 安川 雅樹さん
- 砺波市ふれあい号友の会会員..... 齋藤 譲一さん
- せせらぎ会会長..... 齋藤 紀子さん
- 黄色いハンカチ運動を広める会会長..... 石黒 磯さん
- おはなしポケット代表..... 有沢 史子さん



9月定例会

議会報告

市政のここが聞きたい!!

9月定例会は1日から18日にかけて、18日間の会期で行われました。

9日・10日の両日、代表質問は江守俊光、一般質問は川岸 勇、島崎清孝、山本善郎、川辺一彦、今藤久之、稲垣 修、嶋村信之、村岡修一、大楠匡子、多田裕計、前田喜代志の各議員の順に行われました。その質疑・答弁の中から掲載いたします。

9月定例会の動き

1日	本 会議	開会、会期の決定 市長提案理由説明 議案説明
9日	本 会議	決算特別委員会設置 代表質問、一般質問
10日	本 会議	一般質問、質疑 議案・請願の委員会付託 決算特別委員会
14日	産業建設常任委員会	
15日	民生病院常任委員会	
16日	総務文教常任委員会	
18日	本 会議	委員長報告、質疑、討論 議案・請願の採決 議員提出議案の提出・採決 議員の派遣について 人事案件 閉会

代表質問

**上田カラーを前面に
市政を推進することに
ついて**

江守議員 砺波市における地域活性化対策について

上田市長 4月の「にぎわい商品券」事業を支援したところ、多くの市民に活用していただき、にぎわいづくりに貢献できた。また9月5日・6日の「砺波産業フェア2009」への支援についても、中京方面等も含め、86社の出展があり、民間交流が広がったものと認識している。

今回、補正予算に国の地域活性化経済危機対策臨時交付金事業等を活用した多くの事業を計上したが、今後も国の経済対策事業を活用した地域振興に結びつく事業に積極的に取り組んでいきたい。

また、活力ある砺波市をつくる方策の一つとして、優れた産業技術や製品開発等に取り組んでいる若手を対象とした、砺波市産業奨励賞の新設を検討していきたい。

砺波総合病院の 諸施策について

江守議員 病床利用率、院内自主研修、病診連携、広域連携等の検討について

病院長 県内の公的病院のほとんどで入院患者数が減っている中、当院の病床利用率は77.6%となっており、病院経営の現状を踏まえ、7月末に各診療科の医師などを含む代表者を集めた各科責任者会議を開催した。特に入院患者数が前年に比べ大きく減っていることから、入院患者の確保を基本目標として、各科責任者の共通認識と全職員への周知を図ったところである。

現在院内にある54の委員会は、医療の安全性の確保、患者の人権擁護、専門分野の共通理解、職員教育、研修、経営改善など病院機能を維持していくために不可欠な組織となっており、職員の改善意識を高く評価している。

総合的な医療が必要な高齢者の受け皿については、本年5月から地域総合診療科を試行的に設置し、受け入れを始めたところ、前年に比べ、紹介患者数が増えてきており、開業医からも評価していただいている。なお、10月からは外

一般質問

**増山城跡国史跡指定後の
保存活動と環境整備
の促進について**

川岸議員 案内看板・展望台の設置、駐車場・散策路の整備及びボランティアガイドの養成等について

上田市長 増山城跡周辺施設整備は今後、順次計画的に進めたいと考えている。増山城跡への誘導案内の看板の整備については、散居村展望台への案内看板整備等とあわせて適切な設置場所を選定し、道路整備関連の交付金事業等を活用しながら、具体的に検討を進めていきたい。また、駐

車場の拡充や遊歩道整備については、今後策定する保存管理計画の中で、上和田緑地等の周辺施設も含め一体的な整備計画を検討していきたい。

増山城展望台の整備については、箱物施設を設けるのではなく、展望のよい場所をビューポイントとして、観光マップ等で積極的にPRしていきたいと考えている。

ボランティアガイドの養成等については本定例会に臨時職員を雇用する補正予算案を提出しており、今後は地元の皆様さんや「土蔵の会」をはじめとする方々のご支援を得ながら、史跡の解説ができるボランティアの養成をしていきたい。

本市の行政評価システムについて

島崎議員 本市の行政評価システムの現状について

企画総務部長 導入の経緯と狙いについては、平成18年3月に策定した行政改革大綱及び砺波市行政改革推進計画に基づき、限られた財源、人材を有効活用し、効率的な行政運営の実現、職員の意識改革、行政の説明責任の徹底、行政の透明性の向上を目的とし

て、平成20年度から試行している。本格運用を開始する平成21年度では、評価対象である290の全事業について成果や課題、その解決方法について評価表の作成を終え、現在、平成22年度の総合計画実施計画に反映させるよう、ヒアリングにおける資料として活用している。

評価の方法としては、総合計画に沿っているか、費用対効果は上がっているかという観点から行っている。なお、評価表は市のホームページで公表する予定である。

砺波北部小学校耐震化対応について

山本議員 砺波北部小学校耐震化の整備方法について

上田市長 現在、基本設計をほぼ完了したところである。耐震診断結果を踏まえた検討の結果、整備方針として、昭和45年建築の校舎南棟については耐震性がないだけでなく、教室不足に加えて、多目的スペースもなく、機能的に支障を来していることから改築とする。また、昭和56年に増築した北側校舎については耐震性が十分あり、大規模改築と

したい。体育館については耐震性は十分あり、大規模改築としたい。体育館については耐震性は十分あり、大規模改築と

震性はないが、校舎棟とは違い、機能的に支障はなく、補強と大規模改造を進めていきたい。

校舎の設計については、指摘された問題点を解決し、多目的スペースやランクルームの整備に加えて、放課後児童クラブ室の改築もあわせて行いたい。充実した学校教育活動を可能とするだけでなく、地域開放もできる学校施設となるよう計画していきたい。

なお、事業を前倒しし、本年10月から仮校舎の建設に着手したい。



砺波北部小学校南面（グラウンド側）

に対する砺波市の支援状況と今後の方策

商工農林部長 平成21年度に見直した市水田農業ビジョン・園芸特産物としてタマネギを追加し、産地確立交付金対象としたところである。また、野菜価格安定対策については、とнами野農業協同組合から申し込みがあり、資金造成負担額を支出したところである。

今後の設備や機械に対する

支援策については、とнами野農業協同組合で具体的な計画がなされたことから、市としても支援すべく、来年度の重点要望として乾燥調整施設など、国の補助事業が見込まれるものについては国に、国の要件を満たさない専用機械等については県に要望している。水稲単作地帯にあって農繁期が水稲と競合せず、複合経営が見込めるタマネギについては、今後とも国・県の事業を活用しながら、積極的に支援をしていきたい。

砺波市まちづくり協働事業について

今藤議員 今年度提案予定のテーマと今後の取り組みについて

上田市長 活力あるまちづくりの一環として取り組むものであり、今回は年度途中であるため行政側から提案する。そのテーマとしては、まちづくり市民交流事業に関することとし、具体的には①観光ボランティアの育成、②グリーンツーリズムの展開、③空き家の活用対策をテーマとして調査検討し、実施計画を提案していただける団体を公募するものである。

企画総務部長 今後の取り組みとしては、平成22年度に、市民からテーマを提案していただく「市民提案型事業」と市から提案する「行政提案型事業」の両方の形態を併用して実施したいと考えている。

応募することができるとは、いずれも市内で社会貢献活動を行うボランティア団体、NPO法人、自治会、町内会、地域産業組織、企業などを満たす5人以上の団体とする。

対象となる事業は、地域の課題や社会的課題の解決を目的に、具体的な効果や成果が期待できるものとする。なお、助成の規模は、当該年度は30万円が目安と考えている。

タマネギ産地化支援について

川辺議員 タマネギの産地化